東京厚生年金病院図書室

尾崎 那知子*

東京厚生年金病院図書室

前置き・言い訳・繰り言など

今回この文章を書くに当たって、過去の「加盟館紹介」のページを繰ってみると、本誌の性格上大学図書館の紹介が圧倒的に多く、病院図書室が少数派であるのは当然ながら、そういった器の大小にかかわらず、担当者の気力の充実度に圧倒される。

当図書室も、多くの病院図書室同様一人体制でやっているが、それでも昨年度までは、在職三十数年の大ベテラン（前病院図書室研究会会長石澤實枝氏、彼女はまさに気力充実の代表選手です）が担当していたので、一般的な一人体制とはだいぶ違っていたと思う。

ところが、である。平成9年4月より、年齢だけは十分に大ベテランでも、病院図書室未経験、意志柔軟にして気力ほどほど、言うなれば、老いたひよこの登場と相成ったのだから、利用者は大いに迷惑しているだろう。

その上、9月末には図書室の引っ越し。なんとか予定どおり10月1日の新装オープンには漕ぎ着けたが、これは単に物が納まったというだけで、ドタバタは現在も続いている。

と、長い枕詞が終わったところで、はたと気がついたのは、私はまだ語るべき何ごとも知っていないということある。この8カ月（この文章を書いているのは12月）それこそ、その日暮らしの自転車操業、目の前のことを片づけるのに精いっ

ぱいであった。それ故（？）拙き駄文もお許しください。

沿革

東京厚生年金病院図書室は、当病院の「三十年史」によれば、昭和27年11月の病院開設当初に、初代院長の強い要望で設置され、昭和30年頃から、図書費を予算化し、図書委員会を設置した。30年代半ばには専任司書を採用し、本格的に図書室としての機能を開始して、今日に至っている。規模の拡大、内容の充実とともに4度の変遷を重ね、上記平成9年10月に5回目の引っ越しを終えたところである（今回は規模は横ばい、内容は？）。

日本医学図書館協会への加盟が認められたのは平成8年12月で、これは協会の加盟基準の緩和、前任担当者の努力と熱意が相まって実現したものである。

組織と運営

図書室は病院組織上は庶務課に属している。具体的な運営は医師部門5名、看護部門1名、事務部門1名、司書1名からなる図書委員会を設置し、公費購入の図書・雑誌はすべてこの委員会の審議を経て行っている。

専任職員は1名。11月からは、利用者の強い希望で、午後7時まで開館となったため、5時半から7時半までは、アルバイトを1名雇用している。

当図書室では、自分でできることは自分でする。

*Nachiko OZAKI : 〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1.

(1998年1月12日 受理)

文献探しに例を取れば、説明・指導はするが求められない限り、利用者が自分で検索して、自分で書庫を探し、自分でコピーして、コピー使用票に書き込み、公私の別を分けて箱に入れる。何が公で、何が私かは自分で判断する（私用は有料）。所蔵のないものについては相互貸借依頼票に記入、他館への依頼・料金の支払等の事務手続きは職員がするが、文献複写料金は勿論、郵送料から郵便振込手数料まですべて受益者負担。

スペース

図書室の総面積は、200㎡で、そのうち、書庫部分（電動書架3連46基）が50㎡を占め、閲覧（キャレル12机、参考図書用机6机）・検索（コンピュータ2台）・応接スペースが50㎡、カウンター・事務スペース10㎡、コピー機等作業スペース6㎡となり、残りの84㎡に単行書用固定架複式4連4基、雑誌架16架、新着雑誌展示用複式2連架1基、カードボックス等を配置している。

蔵書

蔵書構成は、臨床病院の図書室という性格を反映して、単行書よりも雑誌の充実に重点が置かれている。雑誌バックナンバーの所蔵は、従来は原則として1970年から（特定の雑誌は1965年から）としていたが、今回の引っ越しで、原則として1980年以前のものは除籍した。ほとんど欠本の

ない状態で収集されていたので、非常に惜しい気はしたが、今後数年分のゆとりを考慮すると、既存のすべての製本雑誌を所蔵し続けることはスペース的に不可能であった。

また、今回思い切って処分できたのは、日本医学図書館協会への加盟が認められ、文献相互貸借制度利用への道が開けたことが大きな拠り所となっている。しかし、相互貸借の本質を考えると、大学図書館に対しては、一方的借借制度と言うのが現状で、はなはだ心苦しいが、その点は、未だ協会加盟の条件が整っていない病院図書室からの依頼に応えることで相殺していただければと思っている。

単行書の所蔵についても、「ノスタルジーだけでは残しません」を基本に、各科部長に選書してもらい、とくに臨床関連図書は原則として1984年以前のは除籍し、だいぶ身軽になった。当病院は研修病院でもあるので、来年度以降、苦しい台所事情とのバランスを取りつつ、補完充実を図っていきたい。

現在の蔵書数は、単行書4,000冊、製本雑誌12,000冊となっている。雑誌の受入れは、和雑誌204誌、洋雑誌153誌、計357誌である。二次資料検索用CD-ROMは、平成4年に「医中誌」と「MEDLINE on Silver-platter」を導入した。年々増え続けるデータ量に対して、導入当時は最新機種であったコンピュータも、寄る年波には勝

でず、慢性的容量不足に陥り、検索速度の遅さに不便を託っていたが、引っ越しを機に新機種が導入され、MEDLINE は on Ovid となった。検索速度に格段の進歩が見られるとともに、検索作業はスムーズになり、印字も美しく、速い・簡単・きれい、と良いこと尽くめで、利用者に好評を博している。しかし未だ、院内-LAN やインターネットは実現しておらず、stand-alone でサービスしている。

将来計画

当図書室は、機械化途上にあるため統計はすべて「正」の字を書いて手集計している。前任者は、

手作業統計としては「よくぞここまで」と思うくらいにきめ細かくやっていたが、不精者の私としては、一日も早くこの作業から足を洗いたく、機械化が今後の課題である。まずは来年度からバーコード化し、諸統計を簡略にしたいと思い、目下先輩病院図書室からいろいろご教授賜っているところである。これも不精者の常で、トンネルを抜ければ雪国だった的・実り确实先行投資型の仕事は、欲と二人連れで結構熱心にやるものだ。

ともあれ、やっとよちよち歩きし始めたところですので、今後とも宜しくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。